

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
倫理学 Ethics		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	()	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
哲学、情報社会と倫理				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
立川 聡子	本館2F	授業時間外		授業中に指示します
授業の概要				
現代社会における倫理問題をテーマに取り上げ、解説を行う。現代社会の倫理問題に関心を持ち、社会の秩序維持のためにはどのような考えや判断が適切なのか、受講者自から考えることが求められる。受講者同士で意見交換する機会もある。				
授業の目標				
①倫理の基本について、説明することができるようにする。 ②生命の倫理、環境の倫理、政治の倫理、情報の倫理、企業の倫理について説明することができ、それらに関して自身の考えを明確に述べるができるようにする。 ③普遍的な倫理の原理を考え、社会で生きていく上の基本的なモラル感を身につけることができるようにする。				
授業の方法				
講義形式で解説し、教員と受講者間でディスカッションを行う。当日レポート、授業後・授業前レポート、発表を適宜行う。				
学習の成果（学習成果）				
社会の一員として適正な判断を行うように行動することができ、物事を善い方向へ導くために行動することができる。社会への責任感を自覚することができ、社会的な課題を解決する方法を考えることができ。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（学習成果、成績評価等についての説明）、受講者の身近な話題からモラルを考えてみる。			
第2回目	倫理学とは何か、倫理学の定義、倫理学の歴史的概略			
第3回目	倫理学の対象となる領域とは、倫理学のさまざまな学説、倫理と道德			
第4回目	ワーク： 新聞記事から倫理に関する諸問題を検索し、領域別に分類する。以後の学習の資料として活用する。			
第5回目	生命の倫理① バイオエシックスの歴史、生命倫理の4原則			
第6回目	生命の倫理② クローン、遺伝子治療、尊厳死、臓器移植、脳死		レポート①次回提出・発表	

第7回目	環境の倫理① 環境倫理学の歴史、3つの基本主張:自然の生存権の問題、世代間倫理の問題、地球全体主義	
第8回目	環境の倫理② 経済の発達と自然保護、開発と生態系、地球の温暖化の問題	
第9回目	政治の倫理① 政治倫理の歴史、政治倫理審査会	
第10回目	政治の倫理② 政治倫理における諸問題、政治家・官僚・有権者・企業のモラル 出・発表	レポート②次回提
第11回目	情報の倫理 ネットケット、サイバー犯罪、不正アクセス、なりすまし、ネット詐欺、出会い系サイト	
第12回目	企業の倫理 コンプライアンス、企業会計におけるモラル、コーポレートガバナンス	
第13回目	倫理について考える…受講者によるディスカッションをおこなう。 プレゼンテーション資料を作成する	
第14回目	倫理学を学んで関心をもったテーマでまとめ、プレゼンテーションをおこなう。	
第15回目	プレゼンテーションの総評とまとめ	
事前・事後学習	不明な点は、次回までに調べておくこと。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	授業に集中している。分からないことは主体的に質問するなど自身で解決している。課題の準備を十分に行い、発表の態度は模範的であり、内容は体系的かつ論理的である。積極的に発言している。
レポート	30%	レポート、プレゼンテーション資料を作成する。S評価:学修の観点を網羅している。論理的に述べている。わかりやすく簡潔に述べている。自身の言葉で表現している。
調査報告書		
小テスト		
試験	30%	16週目に実施 筆記問題 正答90%以上
発表内容 (態度含む)	20%	発表に備えて十分に準備している。自ら意欲的に発表に臨んでいる。話す言葉づかいが適切である。話す速度が適切である。声の大きさが適切である。言葉が明瞭でわかりやすい。話が論理的に展開されている。
その他		
教科書と参考図書		
適宜、プリント配布。 参考図書: 『現代モラルの問題解決のすすめ』青山社、『倫理学事典』		
履修上の留意点・ルール		
積極的な発言を求めます。		